

新春対談

「住み続けたいまち」 岩沼く



対談場所／いわぬま市民交流プラザ

対談日／10月10日

復興から地方創生へ

市長 新春対談ということでお越しいただき、ありがとうございます。

小坂 岩沼市とは10年以上のお付き合いをさせていただいています。岩沼市は10年間で劇的に変化し、いろいろなことに取り組んでいると思います。

市長 市は、復興から地方創生にシフトしています。市全体に活気を持たせることが重要で、いろいろと仕掛けを作っているところです。平成最後の年としての新年を迎えますが、まちづくりの方向性をしっかりと示していきたいと思っています。

小坂 市内を見せていただきまして、障害のある方の雇用の方や市民活動団体が活動する場、そういう人が集う場ができたことは非常に頼もしく思っています。

将来のまちづくりに向けて、元号が変わり新しい時代に進んでいくときに、力を入れてやっているという姿を見ることができました。我々が研究していく中で、これからのあるべき姿、コミュニティの姿を先取りしているのとあらためて感じました。

市長 地方創生は、健常者だけを対象にしたものではなく、障害のある方の働く場や生きがいづくりも大切です。先ほど見ていただいた「ひまわりのたね」ですが、障害のある方も地方創生に参加していただきたいとの思いで造りました。



菊地 啓夫 市長

【プロフィール】
東北学院大学経済学部卒業後、岩沼市役所に入庁。民生部長、健康福祉部長、総務部長などを経て、2011年1月から2014年4月30日まで副市長を務め、2014年6月から岩沼市長に就任。現在2期目。

また、「いわぬま市民交流プラザ」は、市内に約300ある市民活動団体が地域で活躍していただいたり、子どもたちをしっかり見守ってもらったり、地域貢献もいろいろとしてほしいと思います。地方創生の補助を受けて建てた、それらの施設をたくさんの方に利用してほしいと思っています。

住み続けたいまちを目指して

小坂 岩沼市では、震災の前の年から、市民の皆さんに「健康とくらしの調査」を実施させていただきました。この調査は、震災前と震災後の状況が分かるということで貴重なデータとなっています。このデータを活用した研究は、ハーバード大学のカワチ教授との共同研究で、世界に発信できる「岩沼プロジェクト」

と呼ばれています。カワチ教授をはじめ研究に関わった人たちにとって、岩沼市は素晴らしいことを行った都市だと思われており、岩沼市の協力で、震災後どうしたら健康で幸せに暮らせるのかの位置付けができました。岩沼市には大変感謝しています。

市長 震災を経験した我々、個人としては、次の生き方、どういう生活になったら自立したと言いうことができるのがポイントです。一方、まちの復興状況を見ますと、高齢化が進み、人口が増えてきません。高齢化と人口減少が今の課題です。

小坂 若い人呼び込む一方で、高齢者といわれる方々の対象の年齢を75歳まで引き上げるといような話もありますが、人生100年時代を迎えて、高齢者といわれる方々が、どんどん社会に出てきて活躍してもらわないと、日本全国困ったことになると思います。



おさか けん
小坂 健氏
東北大学教授

【プロフィール】

東北大学医学部卒業、東京大学大学院医学系研究科修了後、ハーバード大学公衆衛生大学院客員研究員などを経て2005年より現職。公衆衛生を専門とし、岩沼市高齢者福祉計画検討委員会・岩沼市介護保険運営協議会委員など多くの役職を務める。

市長 人口を増やすのは難しいと思うので、当面は、人口を維持し続けたいと考えています。そのために、少しでも元気で長生きできること、安心して子育てできることの2つが重要だと思っています。岩沼市のこれからの目標は、安全・安心に年齢を重ねていける、住み続けたいまちであることです。小坂教授には、岩沼のデータを最大限有効に活用し、高齢化が進む被災地のこれからの生き方について、役に立つ研究を進めていただきたいと思っています。
小坂 これまで調査してきた岩沼市のデータを解析してきましたが、震災の影響が非常に大きかったことが解明され、認知症など健康への影響が明らかになっていきます。一方、地域のコミュニティ、地域のつながりがあるということが、震災後のPTSDの予防につながり、その後の認知症発症との関係においても良い効果が見られました。震災前から

の人間関係や地域との関わり合いが、震災後のいろいろなことに影響を与えていたことが分かったのも一つの大きな成果でした。人口の増加より、今住んでいる人が生きがいを持ち、楽しく地域で助け合いながら暮らしていける、住み続けたいまちが、これからの地域共生社会なのかと思います。

地域コミュニティへの支援

市長 岩沼市に住んでいる人は、岩沼市の良さを感じていないといわれることがあります。

小坂 岩沼市の中にだけいると、まじの状況がどのようなかを比較できないので、住んでいる人は岩沼市の良さをあまり感じることはできないかもしれません。市外にいる人ほど岩沼市の良さ、素晴らしさは分かっているのではないのでしょうか。
市長 震災後は、新しいまちをつくる

る、新しいコミュニティをつくる機会だと考えました。今までの枠組みを外して、良い面を伸ばし、住民が主役であるまちをつくるには、どのように環境を整え、まとめていくのがよいかということが一番の考えどころでした。

小坂 岩沼市は、今後も住民と一体となってまちをつくるという意識を持ち、支え合い、意見を出しあって、一緒に作り上げていくことを続けてほしいと思います。

市長 まずは地域のコミュニティをしっかりと支えていくことが大切だと考えています。

小坂 地域のコミュニティがしっかりして、まわりに頼りになる人たちがいれば、自然と犯罪も減ってくると思います。助け合う目があることは非常に大事です。

市長 防災も高齢者対策や地域コミュニティと同じで、「顔見知り」「声かけ」が大切です。地域での声かけが災害時には命を守ることにもつながると思います。

小坂 地域のコミュニケーションが、防災の基本だと思います。まず自分たちでできることは自分たちです、地域でできることは地域です。まだまだできることはあると思います。

これからの岩沼へ

小坂 岩沼市にはこれまでも注目し

てきましたし、我々の大学の研究室として、データを解析して世界に発信していくことでこれからも支援していきたいと思っています。
市長 震災から間もなく8年となります。復興後の自立に向けてしっかりと支えていきたいと思っています。また、これまで支援をいただいた国内外の方々へ感謝を伝えるために、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでお手伝いなどもしていきたいと考えており、それが終わった時点で、復興宣言をできればと思っています。



▲ひまわりのたね外観



▲ひまわりのたねにて

※PTSDとは、強烈なショック体験、強い精神的ストレスが、心のダメージとなって、時間がたってからも、その経験に対して強い恐怖を感じるものです。震災などの自然災害、火事、事故、暴力や犯罪被害などが原因になるといわれています。